

平成26年度
がん対策施策報告書

平成27年5月

和歌山県

目次

I	これまでの経緯	1
II	平成26年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策	3
	1 がんの予防	3
	2 がんの早期発見	5
	3 がん教育・普及啓発	6
	4 がん医療	10
	5 がん登録	14
	6 がん研究	15
	7 がんに関する相談支援と情報提供	16
	8 がん患者の就労を含めた社会的な問題	16
	9 その他	17
III	計画に掲げる目標の達成状況	19
◆	参考資料	20

この報告書は、和歌山県がん対策推進条例第31条の規定に基づき、平成26年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策について取りまとめたものである。

【参考】和歌山県がん対策推進条例（抜粋）

（年次報告）

第31条 知事は和歌山県がん対策推進計画に基づく施策について、毎年、実施状況を取りまとめ、速やかに県議会に報告するとともに、適切な手段を用いて県民に公表する。

I これまでの経緯

がんは、昭和56年に日本人の死亡原因の第1位となっており、本県においては昭和54年度以降、がんが死亡原因の第1位となっている。

このような中、平成19年4月1日に施行された「がん対策基本法」及び同法に基づく「がん対策推進基本計画」の基本理念を踏まえ、本県では、平成20年4月にがん対策基本法第11条に規定される都道府県計画として「和歌山県がん対策推進計画」を策定した。

平成24年12月には、「がん患者を含む全ての県民がいきいきと生活することができる地域社会の実現」、「県民自ら、がんに関する理解と関心を深め、互いに支え合い、力を合わせることにより、みんなで一体となったがん対策の推進」を目指して、「和歌山県がん対策推進条例」が全議員賛成のもと議員提案条例として制定された。

本条例は、基本理念である「七位一体の取組」を定め、行政機関（県・市町村）、県議会、県民、保健医療関係者、教育関係者、事業者の役割を明らかにするとともに、報道機関と一致協力した連携のもとで、実効性のあるがん対策を総合的にかつ効果的に推進することを目的としている。

また、平成25年4月には、がん教育・普及啓発やがん研究、がん患者の就労を含めた社会的な問題といった新たな課題等を踏まえた「第2次和歌山県がん対策推進計画」を策定した。

当計画では、県条例の基本理念を踏まえ、がん死亡率の減少を全体の目標として、がん患者を県民全体で支え、がん患者ががんと向き合いながら社会生活を続けられるように「がんとなっても安心して暮らせる支援体制の構築」を目指すべき方向として定めている。

この基本方針を踏まえた上で、予防、早期発見、教育、医療、がん登録、研究、相談支援及び情報提供、がん患者の社会的な問題について分野別に目標を定め、総合的かつ計画的ながん対策の推進を図っているところである。

さらに、計画の策定に併せて、がん対策分野における一層の施策推進を図るため、平成25年4月に、福祉保健部健康局健康推進課の「疾病対策班」の名称を「がん・疾病対策班」に変更するとともに、人員を増員し施策の推進体制の強化を図っている。

【全体目標】 がんによる死亡者数の減少

- ・ 10年間でがんの年齢調整死亡率（75歳未満）の25%減少
「がんの予防」「がんの早期発見」「がん医療の均てん化」などがん対策を一層充実し、全国水準までがんによる死亡者を減少させることを目標とする。

	H17	H27（目標）	目標減少率
和歌山県	98.5	73.9	25%
全国	92.4	73.9	20%

〈参考〉

平成19年4月1日	がん対策基本法施行
6月15日	国のがん対策推進基本計画（～平成24年5月）
平成20年4月1日	和歌山県がん対策推進計画（～平成25年3月）
平成24年6月8日	国のがん対策推進基本計画改定（～平成28年5月）
平成24年12月28日	和歌山県がん対策推進条例施行
平成25年4月1日	第2次和歌山県がん対策推進計画（～平成30年3月）

Ⅱ 平成26年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策

本年度に県が講じた施策は、それぞれ次のとおりである。

1 がんの予防

がんの原因は、食生活、運動等の生活習慣、喫煙（受動喫煙を含む）、ウイルスや細菌への感染などが大きく関わり、生活習慣の改善や感染予防により予防可能な要因も多くあることから、以下の施策を講じた。

(1) 生活習慣改善対策

ア 「わかやま食と健康フェア」を開催し、野菜・果物摂取量の増加、食塩摂取量の減少等啓発を実施した。

開催日：平成26年10月26日

場 所：パームシティ和歌山店

イ 野菜摂取量の増加を目的とした啓発用ウエットティッシュを作成し、各二次保健医療圏での事業等で配布するとともに、食生活改善推進協議会と連携し、食塩摂取量の減少を目的とした啓発活動を実施した。

ウ 運動習慣を身につける動機付けとして、県内全市町村において「紀の国わかやま1万人健康リレーウォーク」を開催し、4,208名（平成23年の開始から延べ8,291名）が参加した。

(2) たばこ対策

ア 健康への正しい理解を目的に、世界禁煙デー（5月31日）や禁煙週間（5月31日～6月6日）での街頭啓発を、各二次保健医療圏で実施した。

イ 禁煙希望者への情報提供等を目的に、県の健康推進課ホームページで禁煙外来、禁煙サポート薬局の情報提供を実施するとともに、「世界禁煙デーに合わせた啓発（平成26年5月31日）」や「わかやま食と健康フェア（平成26年10月26日開催（再掲）」では医師や保健師による禁煙相談や肺年齢測定などを実施した。

ウ 県の健康推進課ホームページ内に開設している、がんについての情報や県の医療等について、総合的に情報提供を行う「わかやま がんネット」において、平成26年7月に独立行政法人国立がん研究センターが設置した禁煙支援のセーフティネットである「クイット・ライン（禁煙電話相談）」の案内を掲載した。（http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/041200/h_sippeigannet/00.html）

エ 学校での教育を目的に、二次保健医療圏地域・職域連携推進協議会の委員が講師となり、小中高での防煙教室を49回実施し、2,992名が受講した。

また、地域・職域連携推進協議会で職場の健康づくりを実践する職域リーダーに対して、受動喫煙防止対策研修や喫煙防止指導者研修を実施した。

オ 喫煙との関わりが指摘されている乳幼児突然死症候群（SIDS）の発症防止にかかる妊婦や家族の禁煙の必要性について、「お母さんと赤ちゃんの健康ガイド」に掲載し、全妊婦に情報提供を実施するとともに、啓発用リーフレットを市町村、保健所、医療機関に送付し、市町村では赤ちゃん訪問時や母子健康手帳配布時にリーフレットを用いて禁煙指導を実施した。

カ 受動喫煙について、「世界禁煙デーに合わせた啓発（平成26年5月31日）」や「わかやま食と健康フェア（平成26年10月26日開催（再掲））」で情報提供を行うとともに、乳幼児健診で保護者に対してリーフレットを配布した。

（3）感染に起因するがんへの対策

ア 県内25市町村が肝炎ウイルス検診の個別勧奨事業を実施した。

また、肝炎ウイルス検査については、県立各保健所及び県内約450か所の協力医療機関で、無料で受検できる体制を構築しており、242件実施した。

これらの検査の結果、陽性者にはウイルス肝炎治療に係る専門医療機関を受診するよう保健所、検査実施医療機関を通じて指導している。

イ 肝炎の医療費助成制度は、平成26年9月から、インターフェロンフリー治療が助成の対象に追加されるなど、対象の拡大が図られている。受給者証の交付実績については、インターフェロン治療233件、インターフェロンフリー治療211件、核酸アナログ製剤治療513件となっている。

ウ 肝疾患診療連携拠点病院である県立医科大学附属病院と国立病院機構南和歌山医療センターの2か所に開設している肝疾患相談支援センターにおいて、治療や医療費助成制度等に対する相談を無料で実施するとともに、県民公開講座、医療従事者に対する研修会、イベント等での出張型検診、出前相談等の事業を実施した。

エ 成人T細胞白血病（ATL）などの対策のため、県立保健所で希望者に対して無料のHTLV-1抗体検査を実施した。

また、妊婦健診で実施している HTLV-1 抗体検査について、「赤ちゃんとお母さんの健康ガイド」に掲載し、市町村を通じて母子健康手帳配布時に全妊婦に対して情報提供を実施した。

オ 胃癌予防対策のため、希望者に対するピロリ菌検査の費用の補助制度を創設し、12市町に対して実施した。

2 がんの早期発見

がんによる死亡を防ぐためには、がんにならないようにすることが重要であるが、がんの予防のため生活習慣等の改善に心がけたとしても、全てのがんを予防することは困難である。

しかし、進行していない初期の段階でがんを発見し、適切な治療を行うことが出来れば、治癒する可能性は高いため、がんを早期の段階で見つけることができるがん検診は、がんの死亡率を下げるのに非常に有効な方法である。

そのため、がんの早期発見やがん検診の受診率の向上について、以下の施策を講じた。

(1) 低線量肺がん CT 検査

がん検診として実施されている胸部エックス線検査に加えて、がん発見率が高いとされている低線量肺がん CT 検査の費用の補助制度を創設し、3市町に対して実施した。

(2) がん検診の普及啓発

ア 市町村と連携してがん検診の受診率を向上させる目的で、がん検診推進支援事業を実施し、検診対象年齢者に対し、5がん（胃、肺、大腸、子宮頸部、乳）の検診の個別受診勧奨にかかる費用の補助を市町村に対して実施した。

イ 5がん（胃、肺、大腸、子宮頸部、乳）の検診について、各市町村や集団検診実施機関毎のプロセス指標や事業評価の状況を各市町村に情報提供した。また、肺がん検診については県生活習慣病管理指導協議会肺がん部会より、検診体制の強化について重ねて通知した。

(3) 検診車・検診機器整備

県内において広域的に集団検診を実施している「公益財団法人和歌山県民総合健診センター」に対し無償貸与を行っている検診車について、検診機器のデジタル化を実施するため、胃部検診車及び胸部検診車各1台の買い替えおよび胸部検診車1台の機器更新を実施した。

県が保有するがん検診車の半数以上が10年以上経過していることから、効果的で効率的な検診が図られるよう、今後も計画的な整備・更新を行っていく。

3 がん教育・普及啓発

健康に関する意識を高めるには、子どもの頃からの教育が重要であり、がんに関する正しい知識を持ち、がんを身近な問題として捉えることにより、がんを予防する生活習慣を身につけることが可能になると考える。

さらに、県民一人ひとりががん予防や早期発見につながる行動を行い、がんに罹患しても患者やその家族が正しく理解し向き合うことができるように、がんに関する普及啓発活動を推進していく必要があることから、以下の施策を講じた。

(1) 二次保健医療圏地域・職域連携推進協議会の委員が講師となり、小中高校で防煙教室を49回開催し、2,992名が受講した(再掲)。

(2) 喫煙の悪影響等も含んだ各学校の薬物乱用防止教室の開催を推進し、指導者の資質向上を目指した「薬物乱用防止教室研修会」を開催した。

(3) 各学校の実情や児童生徒の発達の段階に応じた「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室」を開催した。

(4) がん征圧・がん患者支援を掲げ、和歌山で初開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパンわかやま」に後援をするとともに、和歌山市、公益財団法人和歌山県民総合健診センターと連携して出展し、がん検診等の啓発や啓発物資の配布等を行った。

開催日：平成26年5月24日～25日

場 所：和歌山公園砂の丸広場

主 催：公益財団法人日本対がん協会

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014 和歌山実行委員会

(5) 10月のがん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間に、以下の啓発を行った。

ア 県がん検診受診促進企業と連携し、第11回くみあい祭りに出展し、大腸がんに関するクイズラリーや啓発物資の配布等を行った。

開催日：平成26年10月18日

場 所：モンティグレダイワロイネットホテル和歌山周辺

主 催：和歌山県中小企業団体中央会

- イ 県の広報番組である(株)テレビ和歌山の「きのくに21」、和歌山放送の「ラジオでお届け! 県庁最前線」及び県内FM ラジオ5局の20秒スポットCM でがん検診受診の啓発を行った。

- (6) 県がん検診受診促進企業、和歌山市との共催により、小児がんと闘う子どもたちとその家族の支援を目的としたチャリティコンサートを開催した。

開催日：平成26年11月14日

場 所：和歌山市民会館

- (7) 若年層への普及啓発として、和歌山大学で開催された和大祭で子宮頸がん検診の啓発を実施した。

開催日：平成26年11月22日

場 所：和歌山大学構内

- (8) がんについての情報提供やがん検診受診促進のため、以下の広報を実施した。

ア 早期発見・早期治療が重要であることを周知するため、(株)テレビ和歌山で15秒スポットCM を30回実施した。

イ 県のがん対策について、以下の広報を実施した。

(ア) (株)テレビ和歌山の「きのくに21」で特集を組んだ。

放送日：平成26年5月11日

(イ) 「県民の友」5月号で特集を組んだ。

ウ 骨髄移植等について、和歌山放送の「ラジオでお届け! 県庁最前線」で啓発を実施した。

放送日：平成26年9月23日

- (9) がんについての情報や和歌山県の医療等について、総合的に情報提供を行う「わかやま がんネット」(http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/041200/h_sippe/gannet/00.html) において、がんに関する情報提供を行った。

(10) がんについての情報等について、県民がより理解を深められるように、県立図書館において以下の施策を実施した。

ア 特別コーナーとして設置している「がん」関係図書コーナーに、新刊図書を追加し約700冊のがん関係図書やがん専門雑誌の新規配備を行うとともに、ホームページ上で新着関係資料の内容説明などの紹介を行った。

イ がん関係のパンフレットの配布や啓発ポスター、関係トピックスの掲示、県内のがん関連情報等のホームページでの紹介を行った。

ウ がんに対する理解をより深めるため、以下の県民参加型の取組を実施した。

(ア) がん患者や家族、医療者等がんに関わる方が集まって想いを語り合う場として「図書館いきいきサロン」を開催した。

開催日：毎月第1日曜日 14時～16時

会場：和歌山県立図書館2階

(イ) がん患者・家族、県民のための公開講座として県立医科大学附属病院地域連携室と県立図書館の共催により、和歌山県立図書館スプリング遊 i n g 2014 記念講演会「がんと情報」を開催した。

開催日：平成26年7月26日

会場：和歌山県立図書館メディア・アート・ホール

(ウ) がん患者・家族、県民のための公開講座として、県立医科大学附属病院地域連携室と県立図書館の共催により、講演会「乳がんになるということ」を開催した。

開催日：平成26年12月13日

会場：和歌山県立図書館メディア・アート・ホール

(11) 県民のがんに対する理解を深めていく目的で、以下の事業に対して後援を行った。

ア ピンクリボン着用週間 in 紀南 キャンペーン

目的：ピンクリボン着用によるピンクリボン運動への参加を通じて、乳がん検診受診への意識向上及びきっかけづくり

期間：平成26年4月1日～4月10日

主催：ピンクリボン紀南

イ 第一回市民公開講座「自分らしくいのちを生ききるために」

～がんになっても安心して過ごせる地域をめざして～

目的：地域で看取る終末期医療をテーマとして、顔の見える地域医療について考える

開催日：平成26年4月5日
場 所：橋本市産業文化会館アザレア
主 催：在宅でがんを生きる実行委員会

- ウ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014わかやま（再掲）
目 的：がん制圧や、がんを取り巻く環境整備の大切さを、社会
と和歌山県民全般に広く訴える
開催日：平成26年5月24日～25日
場 所：和歌山公園砂の丸広場
主 催：公益財団法人日本対がん協会
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014 和歌山実行
委員会

- エ 第43回日本消化器がん検診学会近畿地方会
目 的：消化器がん検診に関する研究者の研究発表を通じて、学
術の進歩と正しい検診方法の普及を図る
開催日：平成26年7月5日
場 所：和歌山県民文化会館
主 催：日本消化器がん検診学会近畿支部

- オ がん制圧月間
目 的：がんに対する正しい知識とがん検診受診率向上を広くア
ピールする
期 間：平成26年9月1日～9月30日
主 催：（公財）和歌山県民総合健診センター、和歌山県医師会

- カ ピンクリボン紀南2014 熊野本宮大社ピンクライトアップ
目 的：乳がん早期発見の重要性を周知、乳がん検診受診率向上
開催日：平成26年10月11日
場 所：熊野本宮大社 旧社地大斎原大鳥居
主 催：ピンクリボン紀南

- キ 紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進イベント
「大切なあなたのために」
目 的：医聖華岡青洲の志を引継ぎ、乳がんの早期発見、早期治
療、検診受診率の向上を目指す
開催日：平成27年2月8日
場 所：ホール田園
主 催：紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部

4 がん医療

がん死亡の減少のためには、質の高いがん医療を提供することが必要である。

そのため、県内の拠点病院や推進病院の診療機能、治療水準の向上と連携・協力体制を強化し、専門的な医療従事者の養成や多職種によるチーム医療を推進するため、以下の施策を講じた。

(1) がん診療体制の整備・充実

がん診療体制の整備・充実については、国の「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づき、拠点となる病院が二次保健医療圏毎に指定され、指定要件を満たす病院がない二次保健医療圏については、県で独自に基準を定めて「和歌山県がん診療連携推進病院」を指定し、県内のがん診療の均てん化に取り組んでいる。

なお、拠点病院については、平成26年1月に国の「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」が改正され指定の要件が強化されたが、県内の既指定の拠点病院については平成27年に全て指定更新された。

県内のがん診療連携拠点病院及びがん診療連携推進病院について、以下の支援を実施した。

ア 拠点病院が実施する専門的な医師等の育成のための化学療法や放射線療法の研修会の開催及び緩和ケアや化学療法、地域がん登録等に関わる専門的な医療従事者の養成について支援を実施した。

更に、県拠点病院の緩和ケアセンターの整備について支援を実施した。

イ 県推進病院が実施する緩和ケアの研修会の開催や相談体制の充実、院内がん登録等について支援を実施した。

(2) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進

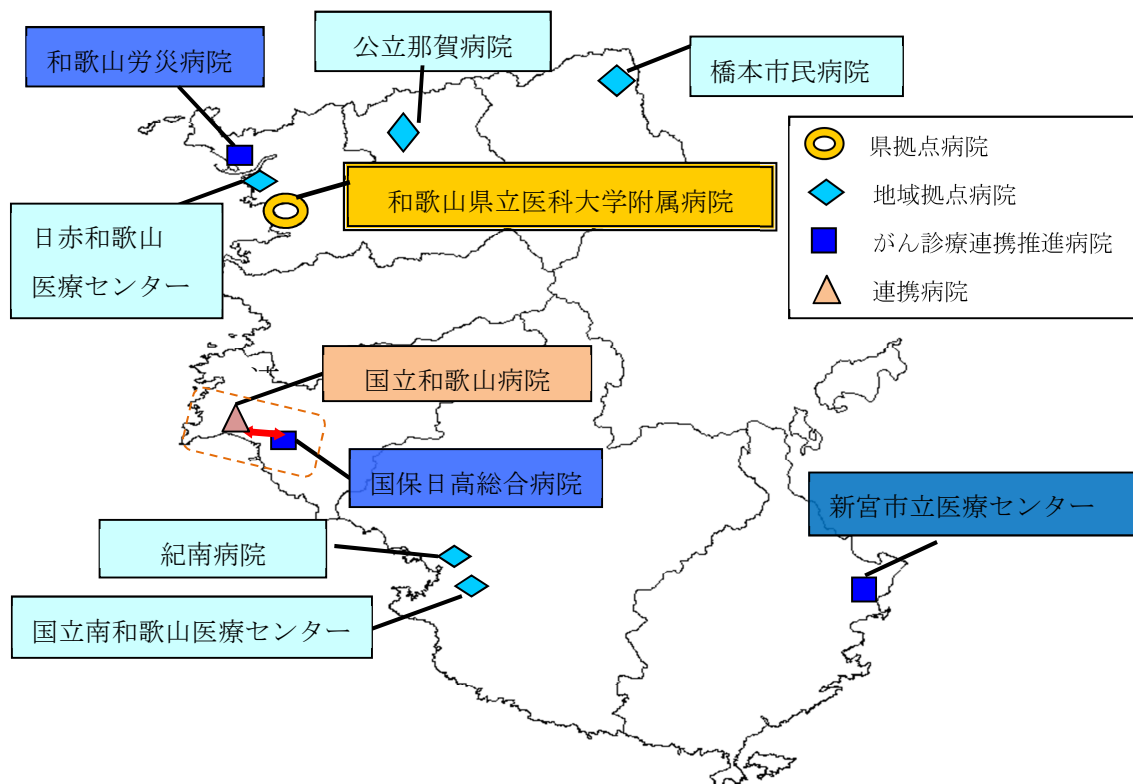
ア 県立医科大学附属病院に、県のがん診療に関する高度医療、患者家族への支援などを行う拠点として、平成26年4月に東棟が稼働し、内視鏡検査・治療室、化学療法センターが拡充された。

イ 時代に即応した高度で先進的ながん医療を実施する施設整備として、新宮医療圏の拠点病院である新宮市立医療センターに整備したIMRT（強度変調放射線治療）対応のリニアックが稼働した。

ウ 県立医科大学附属病院に、平成27年1月に「腫瘍内科」を設置し、がん化学療法の体制を充実強化した。

〈県内のがん診療連携拠点病院・がん診療連携推進病院〉

	保健医療圏	医療機関名
県がん診療連携拠点病院	和歌山	和歌山県立医科大学附属病院
地域がん診療連携拠点病院	和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター
	那賀	公立那賀病院
	橋本	橋本市民病院
	田辺	紀南病院 国立南和歌山医療センター
県がん診療連携推進病院	和歌山	和歌山労災病院
	御坊	国保日高総合病院 (連携) 国立和歌山病院
		新宮



(3) がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

- ア がん専門医療者の充実を目指して、高い専門性と優れた看護実践能力をもっているがん看護専門看護師を目指す看護師が、県内で日本看護協会の認定審査の受験資格を取得できるように、県立医科大学の大学院保健看護学研究科博士前期課程にがん看護専門看護師コースが設置された。
- イ 化学療法について、日進月歩で進む薬剤に対応するため、県がん診療連携協議会において、化学療法実務者研修会を2回開催し、専門的な知識の向上を図った。
また、チーム医療の質の向上や新薬等の使用や管理方法の情報取得を目的に、国立がん研究センターで開催された、地域におけるがん化学療法研修実施に係る指導者養成研修に医師他3名が参加した。

(4) がんと診断された時からの緩和ケアの推進

- ア がん患者やその家族ががんと診断された時から抱える様々な苦痛を軽減し、質の高い療養生活を送ることができるためには、がんの診断、治療、在宅療養など様々な場面において緩和ケアが切れ目なく実施される必要がある。
そのため、がん診療連携拠点病院、がん診療連携進病院及び県がん診療連携協議会と県で、緩和ケア研修会を8回開催し、医師61名、医師以外の医療従事者140名が修了した。
平成26年度末での修了者数は1,241名（医師759名 コメディカル482名）となった。
- イ 緩和ケアについて、緩和ケアチームの質の向上などを目指して、県がん診療連携協議会において、緩和ケアチーム研修会を開催し、専門的な知識の向上を図った。
- ウ 県立医科大学附属病院において、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟などを統合し、がんと診断された時から切れ目なく迅速かつ適切な緩和ケアを受ける事ができる体制を構築するため、緩和ケアセンターを整備した。

(5) 地域の医療・介護サービス提供体制の構築

がん患者がその地域にかかわらず等しく質の高いがん医療を受けられるよう、新宮医療圏の拠点病院である新宮市立医療センターに整備したIMRT（強度変調放射線治療）対応のリニアックが稼働した（再掲）。

(6) その他のがん医療体制の充実

- ア 和歌山県立医科大学附属病院において病理診断科を設置し、病理診断体制を強化した。
- イ がん治療において運動機能の改善や生活機能の低下予防に資するためには、がん患者に対する質の高いリハビリテーションに取り組む必要があることから、県がんリハ研修会実行委員会、和歌山県立医科大学附属病院が主催し、「平成26年度がんのリハビリテーション研修会 in 和歌山」を開催し69名が参加した。
開催日：平成27年1月31日～2月1日
会場：和歌山県立医科大学高度医療人育成センター
- ウ 県のがん対策に役立てて欲しいと、海南市在住（当時）の県民の方から寄附金を頂いたことから、県ではそのご意向を踏まえて、がんの先進医療を受ける患者に対して、その治療費（技術料）の半額（上限150万円）の補助を行うがん先進医療支援事業を創設した。

(7) 「本県に多いがん・難治性がん・希少がん」の対策

- ア 肺がん、膵臓がん、肝臓がん対策
 - (ア) 県内25市町村が肝炎ウイルス検診の個別勧奨事業を実施した。また、肝炎ウイルス検査については、県立各保健所及び県内約450か所の協力医療機関で、無料で受検できる体制を構築しており244件実施した。
これら検査の結果、陽性者にはウイルス肝炎治療に係る専門医療機関を受診するよう保健所、検査実施医療機関を通じて適切に指導している（再掲）。
 - (イ) がん検診として実施されている胸部エックス線検査に加えて、がん発見率が高いとされている低線量肺がんCT検査の費用の補助制度を創設し、3市町に対して実施した（再掲）。
- イ 胃がん・大腸がん
 - (ア) 県がん検診受診促進企業及び和歌山市と連携し、第11回くみあい祭りに出展し、大腸がんに関するクイズラリーや啓発物資の配布等を行った（再掲）。
 - (イ) 胃がん予防対策のため、希望者に対するピロリ菌検査の費用の補助制度を創設し、12市町に対して実施した（再掲）。
- ウ 女性に特有のがん対策
 - (ア) 全市町村において、乳がん・子宮頸がん検診の個別勧奨を実施した（再掲）。

(イ) 若年層への普及啓発として、和歌山大学で開催された和太祭で子宮頸がん検診の啓発を実施した（再掲）。

開催日：平成26年11月22日

場 所：和歌山大学構内

(ウ) 子宮頸がん検診実施要領を改正した。

エ 小児がん対策

(ア) 県難病・子ども保健相談支援センターにおいて、小児がん患者やその家族が地域で安心して暮らせるよう、療養生活に関する相談や医療・福祉制度、家族会に関する情報の提供を行った。

相談件数：24件（面接17件、電話7件）

(イ) 県難病・子ども保健相談支援センターにおいて、小児がん患者の家族交流会の開催に向けて、関係者による情報交換会を3回行った。

オ 骨髄移植等の推進

(ア) 骨髄移植における問題や今後の普及啓発等について、平成27年2月26日に、骨髄移植対策懇話会を開催し意見交換を行った。また、献血併行型骨髄バンクドナー登録会やイベント開催時にリーフレットやティッシュ等の配布を実施した。

(イ) 県立各保健所（支所）及び土日祝日に対応可能な和歌山駅前献血ルームに骨髄バンクドナー登録窓口を設置しており15名が登録した。

(ウ) 献血併行型骨髄バンクドナー登録会を77回実施し666名が登録した。

- ・休日（土日祝日）開催は26回。

- ・若年層の登録者増加推進のための県内大学等での開催は7回（136名登録）。

(エ) 若年層の登録者増加推進のため、上記登録会開催とともに、県内大学生10名を対象に、骨髄バンクドナー登録会説明員養成研修会を実施した。

5 がん登録

がん対策には、がんに関係する情報の正確な把握が不可欠で、その情報から課題を見出し、がん対策に反映させる仕組みが重要である。

このため、県では、がんの罹患率及び生存率等の推計等、がんに関する詳細な情報を収集・解析することにより、今後のがん対策を効果的に推進するため、平成23年度から地域がん登録を実施しており、以下の施策を講じた。

- (1) 地域がん登録において、効率的な予後調査体制の構築や院内がん登録を推進し、がん登録の精度向上のため、県がん診療連携協議会がん登録部会により、院内がん登録の実務者研修及び希望する医療機関に対する訪問研修を実施し計151名が受講した。

(実務者研修)

第1回 開催日：平成26年7月16日

場 所：和歌山県立医科大学

第2回 開催日：平成26年9月16日

場 所：南和歌山医療センター

第3回 開催日：平成26年12月19日

場 所：和歌山県立医科大学

第4回 開催日：平成27年2月21日

場 所：済生会和歌山病院

- (2) 院内がん登録の推進のため、院内がん登録を実施する一定規模以上の医療機関に対して、登録体制の充実について支援した。

- (3) 地域がん登録において、罹患率のより正確な把握のために、遡り調査を実施し、2011年の罹患集計において国立がん研究センター罹患モニタリング集計が定める比較可能地域の基準を満たした。

- (4) 平成27年1月に、「和歌山県地域がん登録事業報告書 平成23年(2011年)罹患集計」を和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センターがん登録室と協同で作成した。

6 がん研究

がんの発病予防の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の開発その他の研究について情報を収集するとともに情報を広く公開し、がん研究の推進に取り組むため、以下の施策を講じた。

- (1) 5がん(胃、肺、大腸、子宮頸部、乳)の検診について、各市町村や集団検診実施機関毎のプロセス指標や事業評価の状況を取りまとめた(再掲)。
- (2) 地域がん登録において、罹患率のより正確な把握のために、遡り調査を実施し、2011年の罹患集計において国立がん研究センター罹患

モニタリング集計が定める比較可能地域の基準を満たすとともに、生存率を算出するための準備調査を実施した。

- (3) 先進医療やBNCTなどの最先端のがん医療について、現在、大学や医療機関で行われている治療や研究の現状など状況の把握に取り組んだ。

また、和歌山県立医科大学等で、がんの発病予防の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の開発やその他の研究について、それぞれ取り組んでいる。

7 がんに関する相談支援と情報提供

がん患者やその家族は、病状、医療機関や治療方法の選択、仕事と治療の両立など様々な不安を抱えていることから、拠点病院や推進病院の相談支援体制の強化を図るとともに、医療機関の情報など情報提供体制の強化のため、以下の施策を講じた。

- (1) がん患者やその家族や地域の方々に対して、がんの治療や療養生活全般の質問や相談を受けるなど、がんに関する情報提供を行う目的で各がん診療連携拠点病院や推進病院に設置している相談支援センターについて、相談体制を支援した。

- (2) がん患者及びその家族に対し、悩み等を共有し支援する体制の充実を図るため、NPO 法人いきいき和歌山がんサポートとの共催により、がん患者ピアサポーター研修会を実施した。

開催日：平成26年9月27日

場 所：県民交流プラザ・ビッグ愛

- (3) 県の健康推進課ホームページ内に開設している「わかやま がんネット」において、がん相談支援センターの情報や、日本対がん協会のがん相談ホットライン、国立がん研究センターが株式会社日経 BP 社の協力のもと開設したがん就労を推進支援するサイト「がんと共に働く 知る・伝える・動き出す」を掲載した（再掲）。

8 がん患者の就労を含めた社会的な問題

がん患者とその家族は、社会とのつながりを失うことに対する不安や仕事と治療の両立が難しいなど社会的苦痛を抱えている。

がん患者とその家族の精神心理的苦痛・社会的苦痛を和らげるため、新たに、がん患者とその家族を社会全体で支える取組を実施し、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を実現することを目標として、以下の施策を講じた。

- (1) 県の健康推進課ホームページ内に開設している「わかやま がんネット」において、がん相談支援センターの情報や、日本対がん協会のがん相談ホットライン、国立がん研究センターが株式会社日経 BP 社の協力のもと開設したがんと就労を推進支援するサイト「がんと共に働く 知る・伝える・動き出す」を掲載した（再掲）。
- (2) 市町村実施のがん検診推進事業で同封するがん検診手帳に、相談支援センターについての掲載ができるよう、住所・連絡先等の情報提供を市町村に行った。

9 その他

県のがんの予防や対策に対する検討等のため、以下の委員会等を開催した。

- (1) 和歌山県がん対策推進委員会
開催日：平成27年2月13日
内 容：県のがん対策に対する平成26年度取組及び平成27年度取組について
- (2) 和歌山県生活習慣病検診管理指導協議会 子宮がん部会
開催日：平成26年11月11日
内 容：県内の子宮がん死亡及びがん検診実施状況報告と精度管理について
- (3) 和歌山県生活習慣病検診管理指導協議会 肺がん部会
開催日：平成27年3月18日
内 容：県内の肺がん死亡及びがん検診実施状況報告と精度管理及び肺がんCT 検診について
- (4) 和歌山県感染症対策委員会 肝炎対策部会
開催日：平成27年3月20日
内 容：和歌山県における肝炎対策の強化について

〈和歌山県内のがん相談支援センター〉

機関名	所在地	電話番号	対応日・時間
和歌山県立医科大学 附属病院 がん相談支援センター	和歌山市紀三 井寺 811-1	073-441-0778 (直通)	平日 8時45分～17時30分
日本赤十字社 和歌山医療センター 患者総合支援センター	和歌山市小松 原通 4-20	073-422-4171 (代表)	平日 9時～17時30分
公立那賀病院 相談支援センター	紀の川市打田 1282	0736-78-3892 (直通)	平日 9時～16時
橋本市民病院 がん相談支援室	橋本市小峰台 2-8-1	0736-34-6116 (直通)	平日 9時～16時
紀南病院 がん相談支援センター	田辺市新庄町 46-70	0739-22-5118 (直通)	平日 8時30分～17時15分
国立病院機構 南和歌山医療センター がん相談支援センター	田辺市たきない 町 27-1	0120-92-8160 (直通)	平日 8時30分～17時
和歌山労災病院 患者サポートセンター	和歌山市木ノ本 93-1	073-451-3181 (代表)	平日 8時30分～16時30分
国保日高総合病院 相談支援センター	御坊市藪 116-2	0738-24-1786 (直通)	平日 9時～16時
新宮市立医療センター 地域医療連携室	新宮市蜂伏 18-7	0735-31-3333 (代表)	平日 8時30分～17時

Ⅲ 計画に掲げる全体目標の達成状況

第2次和歌山県がん対策推進計画において全体目標と設定している、10年間でがんの年齢調整死亡率（75歳未満）の25%減少については、平成25年は81.8で減少傾向にあるものの、目標値の73.9をまだ上回っている状況である。

	H17	H25	H27（目標）	目標減少率
和歌山県	98.5	81.8	73.9	25%
全国	92.4	80.1	73.9	20%

《參考資料》

第2次和歌山県がん対策推進計画（H25年度～H29年度）

全体目標

がんによる死に率の減少
(年齢調整死亡率(75歳未満) 98.5(H17)→73.9 (H27))

がんになっても安心して暮らせる支援体制の構築

1 がんの予防

施策

- 生活習慣改善対策**
 - ・がんに関連する食生活や運動習慣など生活習慣の改善
- たばこ対策**
 - ・受動喫煙防止や禁煙支援などたばこ対策の推進
- 感染に起因するがんへの対策**
 - ・子宮頸がんの予防、肝炎対策

個別目標

【生活習慣改善対策】

- ①野菜摂取量(成人1日)：350g以上【5年以内】
- ②果物摂取量(成人1日)：200g以上【5年以内】
- ③食塩摂取量(成人1日)：1.0g未満【5年以内】
- ④運動習慣者割合：成人男性4%以下、成人女性1.5%以下【5年以内】
- ⑤運動習慣者：成人男性3.9%、成人女性3.5%【5年以内】

【たばこ対策】

- ①喫煙率(成人)：1.2%以下【10年以内】
- ②受動喫煙(未成年)：0%【10年以内】
- ③受動喫煙(行政機関・医療機関)：0%【10年以内】
- ④受動喫煙(店舗)：3%【10年以内】
- ⑤受動喫煙(飲食店)：1.5%【10年以内】
- ⑥受動喫煙(店舗)：0%【8年以内】

【感染症対策】(新)

- ・感染に起因するがんへの対策を推進することにより、がんを予防

(新) 3 がん教育・普及啓発

施策

- 1 がんに関する正しい知識を深める教育の充実
- 2 がんに関する普及啓発活動

個別目標

- ・子どもの頃から、がんに関する正しい知識やがん患者に対する正しい認識を深める教育の充実
- ・県民一人ひとりが、喫煙、食生活等の生活習慣が健康に及ぼす影響等がんに関する正しい知識を深め、積極的にがん検診を受診するよう、普及啓発活動を推進
- ・拠点病院等医療機関の情報提供の推進

4 がん医療

施策

- 1 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進 (新)
- 2 がん医療に携わる専門的医療従事者の育成 (新)
- 3 がんと診断されし患者からの緩和ケアの推進
- 4 地域の医療・介護サービス体制の充実
- 5 その他のがん医療体制の充実 (新)
- 6 「本県に多いがん・難治性がん・希少がん」の対策 (新)

個別目標

- ①全拠点病院等にチーム医療体制を整備【3年以内】
- ②拠点病院のがん専門医、専門医療従事者の配備体制公表【5年以内】
- ③がん診療に携わる全医療従事者が緩和ケアの知識を習得【5年以内】
- ④拠点病院の外がん診療に携わる全医師が緩和ケア研修を修了【5年以内】
- ⑤拠点病院を中心に、緩和ケアを迅速に提供できる診療体制を整備【3年以内】
- ⑥緩和ケアチームや緩和ケア外来など緩和ケア提供体制の整備【3年以内】
- ⑦患者の居住する地域にかかわらず等しく質の高いがん医療を受けられるよう拠点病院の機能をさらに充実
- ⑧患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるような在宅医療・介護サービス提供体制の構築

2 がんの早期発見

施策

○検診受診率の向上

- ・市町村と連携した効果的な受診勧奨 (新政策)
- ・事業所でのがん検診実施促進と受診勧奨 (新)
- ・市町村が行うがん検診の積極的推進と事業所、がん各別における市町村・県民・保健医療関係者・事業者の役割の広報と啓発

個別目標

- ①各がん検診受診率：50%以上(胃・肺・大腸は40%)【5年以内】
- ②精密検査受診率：9.0%【5年以内】
- ③全ての市町村が精度管理・事業評価を実施。科学的根拠に基づく検診を実施。【5年以内】

5 がん登録

施策

- 1 地域がん登録の推進
 - ・地域がん登録協力医療機関の推進
- 2 院内がん登録の推進
 - ・院内がん登録協力医療機関の推進

個別目標

- ・効果的な予後調査体制の構築や院内がん登録を実施する医療機関数の増加を通じて、がん登録の精度を向上【5年以内】

(新) 6 がん研究

施策

○がんの発症原因・予防・治療に関する情報収集

- ・がん登録推進等がんの地域特性把握
- ・効果的ながん予防などがんに関する研究の情報収集

個別目標

- ・がんの発症原因の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の確立その他の研究について情報を収集することにも、情報を広く公開し、研究を推進する。

7 がんに関する相談支援と情報提供

施策

- 1 相談体制の充実
 - ・拠点病院の相談支援センターの機能強化
- 2 情報提供体制の充実
 - ・拠点病院の情報提供体制の充実

個別目標

- ・患者とその家族の悩みや不安を汲み上げ、患者とその家族にとつてより活用しやすい相談支援体制を実現

(新) 8 がん患者の就労を含めた社会的な問題

施策

○就労を含めた様々な問題への相談体制の構築

- ・拠点病院の相談支援センターの機能強化

個別目標

- ・拠点病院の相談支援センターにおいて、がん患者の就労を含めた様々な社会的な問題に対応できる相談体制を構築

分野別施策と個別目標

全体目標 がんによる死亡者数の減少
(10年間でがんの年齢調整死亡率(75歳未満)の25%減少)

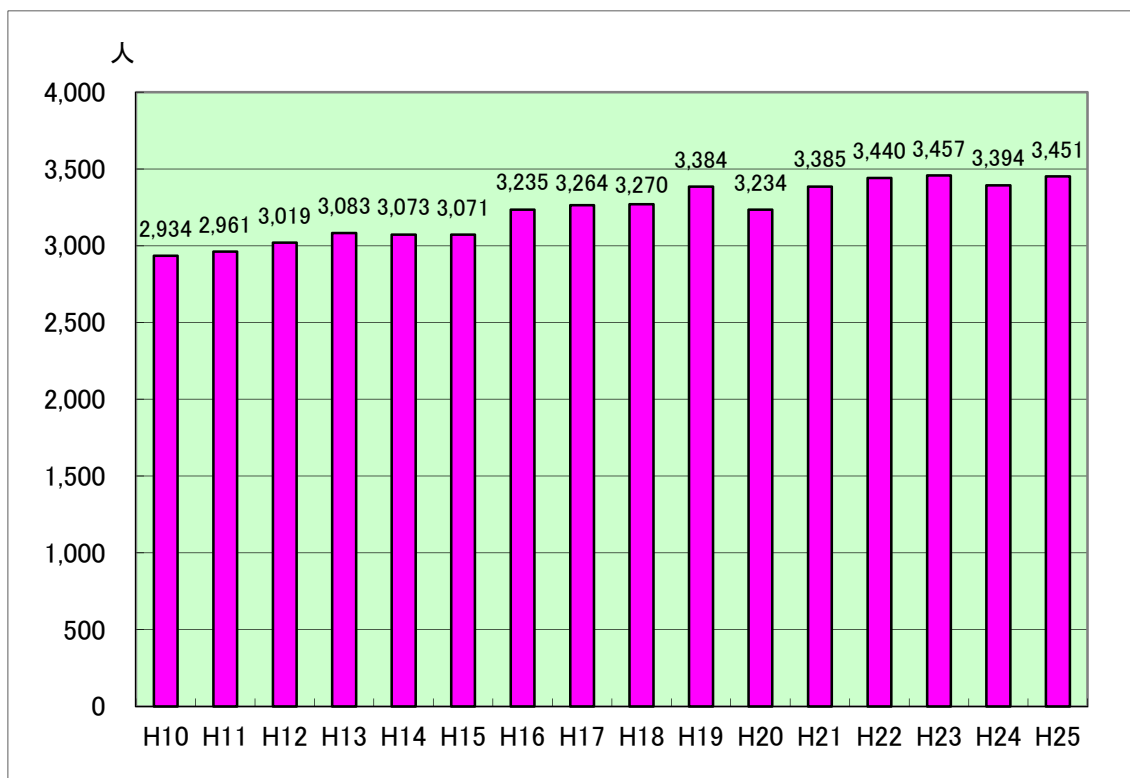
	H17 (現状)	H23 (現状)	H27 (目標)	減少率 (H17-H27)
和歌山県	98.5	94.0	73.9	25%
全国	92.4	83.1	73.9	20%

個別目標一覧表

分野別施策	個別目標	現状 (最近値)	目標値	備考
1 がんの予防	■生活習慣改善対策 野菜摂取量(成人1日あたり)を300g以上 果物摂取量(成人1日あたり)を200g以上 食塩摂取量(成人1日あたり)を10g未満 多量飲酒割合を成人男性4%以下、成人女性1.5%以下(1日日本酒3合以上) 成人の運動習慣者を成人男性39%以上、成人女性35%以上(1週間に2日以上、1回30分以上、1年以上継続) ■たばこ対策 成人喫煙率 未成年喫煙率	280.2g	350g以上	5年以内
		127.5g	200g以上	5年以内
		10.5g	10g未満	5年以内
		成人男 6.7%	4%以下	5年以内
		成人女 1.7%	1.5%以下	5年以内
		成人男 34.3%	39%以上	5年以内
		成人女 22.0%	39%以上	5年以内
		中1(男) 15.9%	12%以下	10年以内
		高3(男) 2.7%	0.0%	10年以内
		中1(女) 0.7%	0.0%	10年以内
2 がんの早期発見	■感染症に起因するがんへの対策 感染症に起因するがんへの対策を推進することにより、がんを予防	4.4%	0%	5年以内
		6.2%(男) 3.1%(女)	3%	5年以内
		—	15%	5年以内
		42.1%	0%	5年以内
		—	—	—
		11.1%	40%以上	5年以内
		22.2%	40%以上	5年以内
		18.4%	40%以上	5年以内
		32.2%	50%以上	5年以内
		36.4%	50%以上	5年以内
3 がんの診断	■がん診断 地域がん登録の推進 院内がん登録の推進	70.6%	90%	5年以内
		65.7%	90%	5年以内
		59.8%	90%	5年以内
		79.3%	90%	5年以内
		62.4%	90%	5年以内
		33.3%	100%	5年以内
		36.7%	100%	5年以内
		36.7%	100%	5年以内
		36.7%	100%	5年以内
		26.3%	100%	5年以内

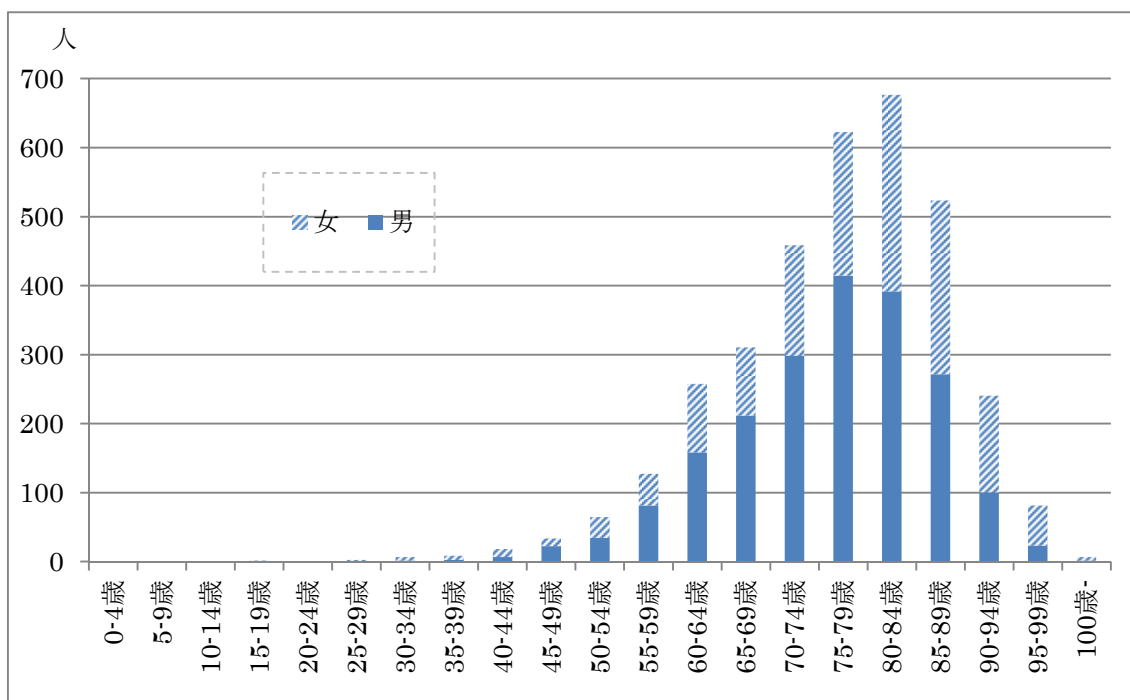
分野別施策	個別目標	備考
(新)3 がんの教育・普及啓発	■がんに関する正しい知識を深める教育の充実 ・子ども頃から、がんに関する正しい知識やがん患者に対する正しい認識を深める教育の充実 ・県民一人ひとりが、喫煙、飲酒、食生活等の生活習慣が健康に及ぼす影響等ががんに関する正しい知識を深め、積極的にがん検診を受診するよう、普及啓発活動を推進 ・患者・家族がその症状や治療を正しく理解できるよう、拠点病院等医療機関の情報提供の推進	3年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		3年以内
		3年以内
		3年以内
		3年以内
		3年以内
5 がん登録	■がん登録 地域がん登録の推進 院内がん登録の推進	5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
(新)6 がん研究	■がん研究 がんの発病原因の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の開発その他の研究について情報を収集するとともに、情報を広く公開し、研究を推進する。	5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
7 がんに関する相談支援と情報提供	■がんに関する相談支援と情報提供 がん相談支援体制の充実 がん患者を始めとする県民への情報提供	5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
(新)8 がん患者の就労を含めた社会的な問題	■がん患者の就労を含めた社会的な問題 がんになっても安心して働き続ける社会の構築	5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内
		5年以内

〈悪性新生物（がん）死亡数年次推移（和歌山県）〉



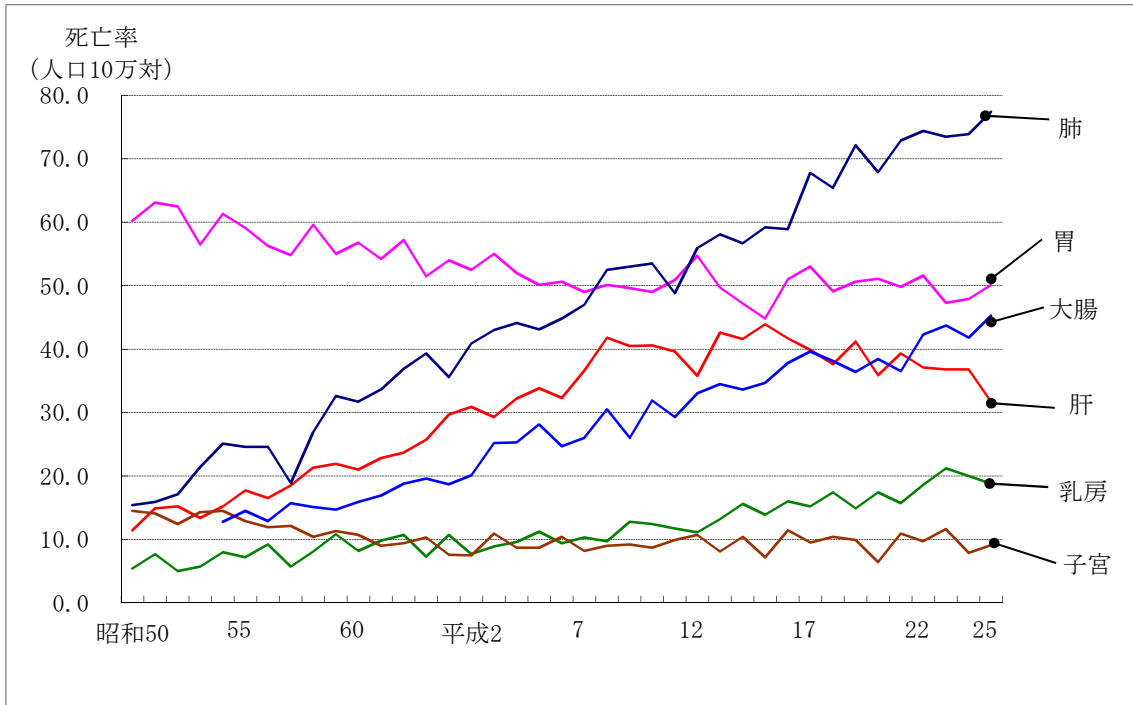
（出典：平成 25 年人口動態統計（確定数））

〈年齢 5 歳階級別悪性新生物（がん）死亡者数（和歌山県 2013 年）〉



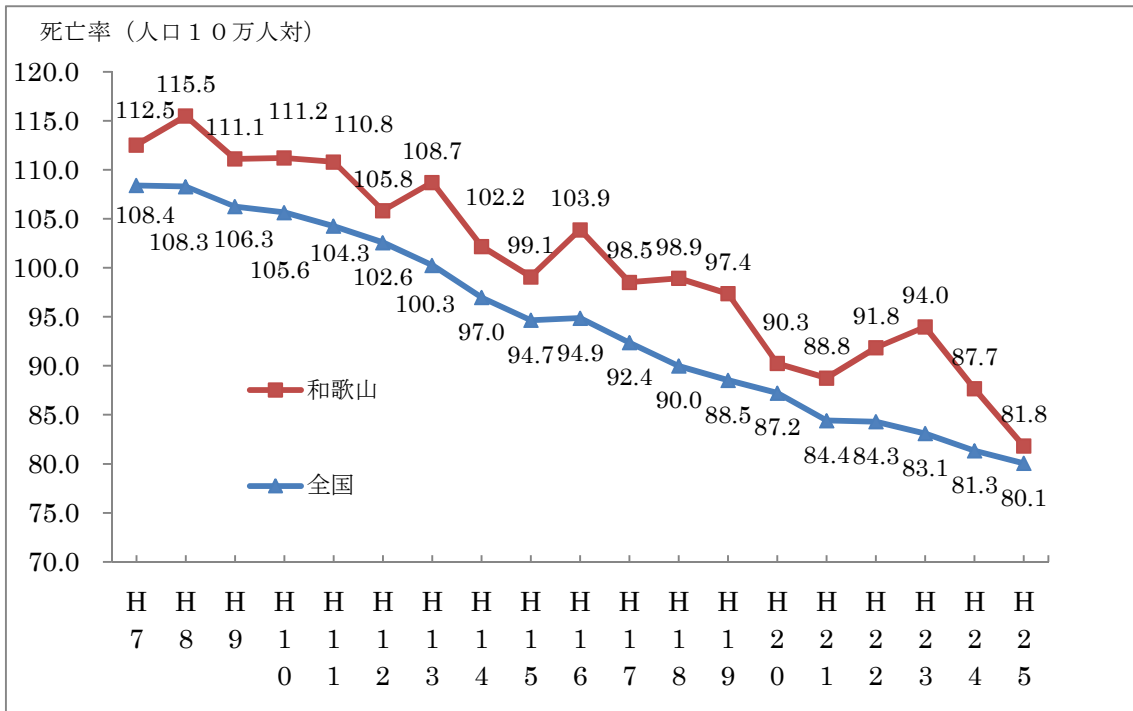
（出典：平成 25 年人口動態統計（確定数））

〈悪性新生物（がん）の主な部位別粗死亡率の年次推移（和歌山県）〉



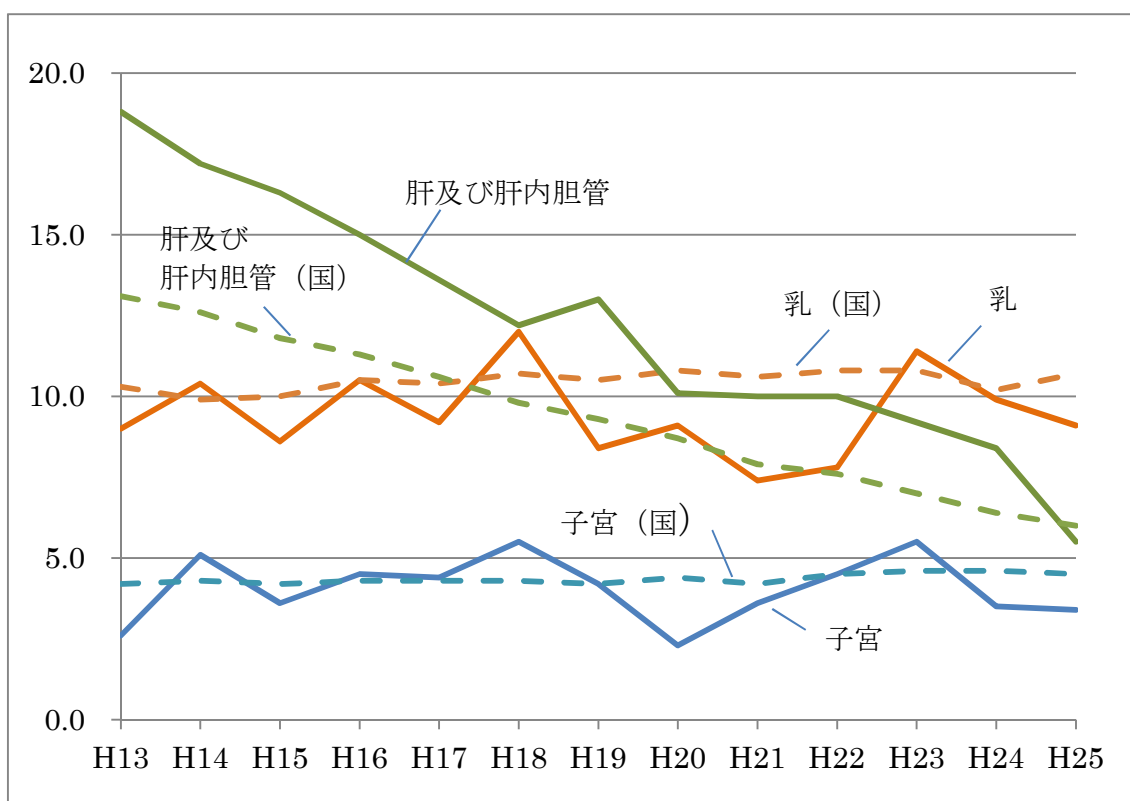
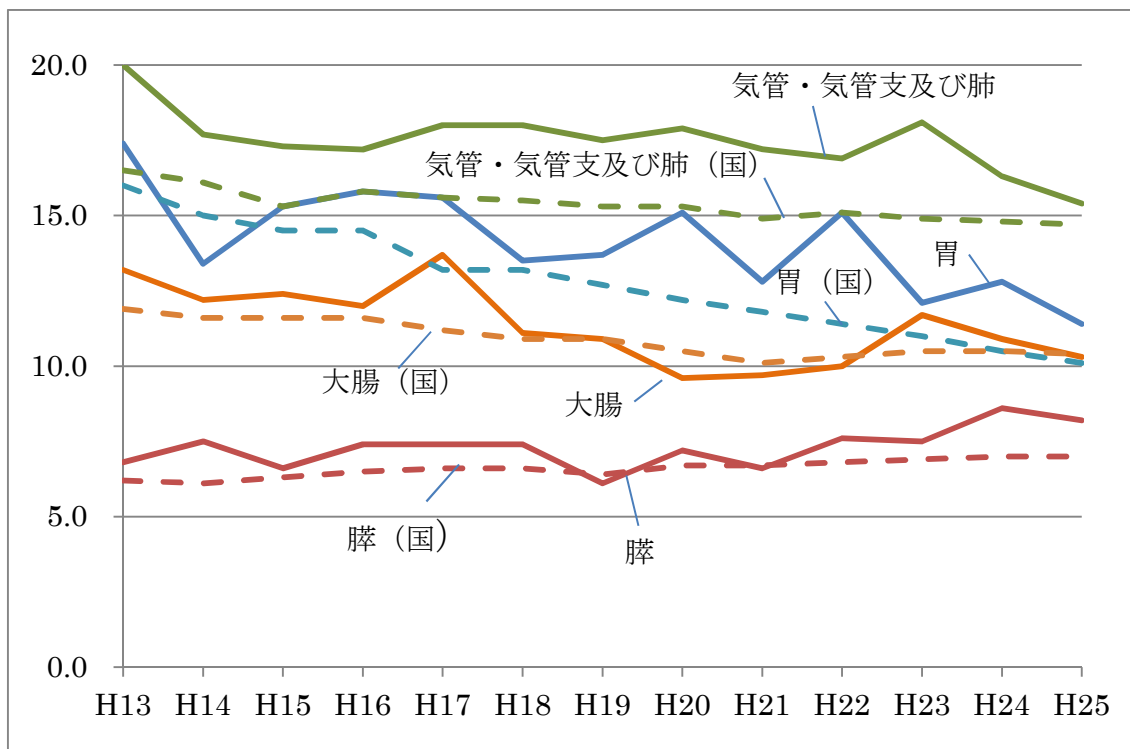
(出典：平成25年人口動態統計（確定数）)

〈悪性新生物（がん）75歳未満年齢調整死亡率 年次推移（男女計）〉



(出典：国立がん研究センター)

〈悪性新生物（がん）の75歳未満部位別年齢調整死亡率の年次推移（和歌山県）〉



※ 死亡率は人口10万対の数値

(出典：国立がん研究センター)

〈悪性新生物（がん）の75歳未満部位別年齢調整死亡率の年次推移〉

（率・ワースト順位）

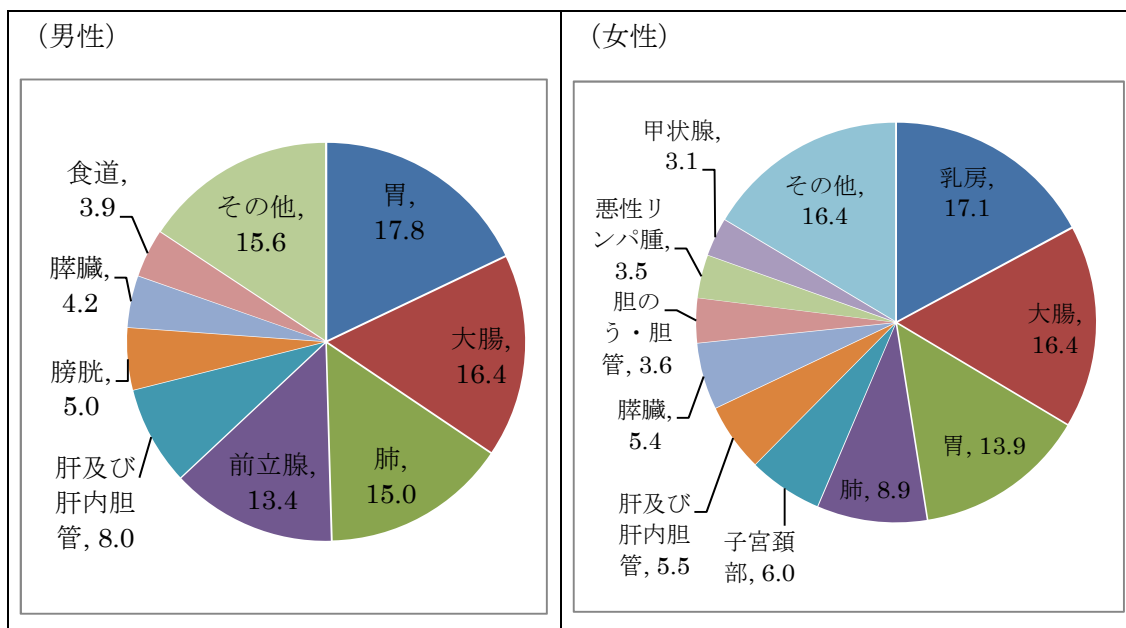
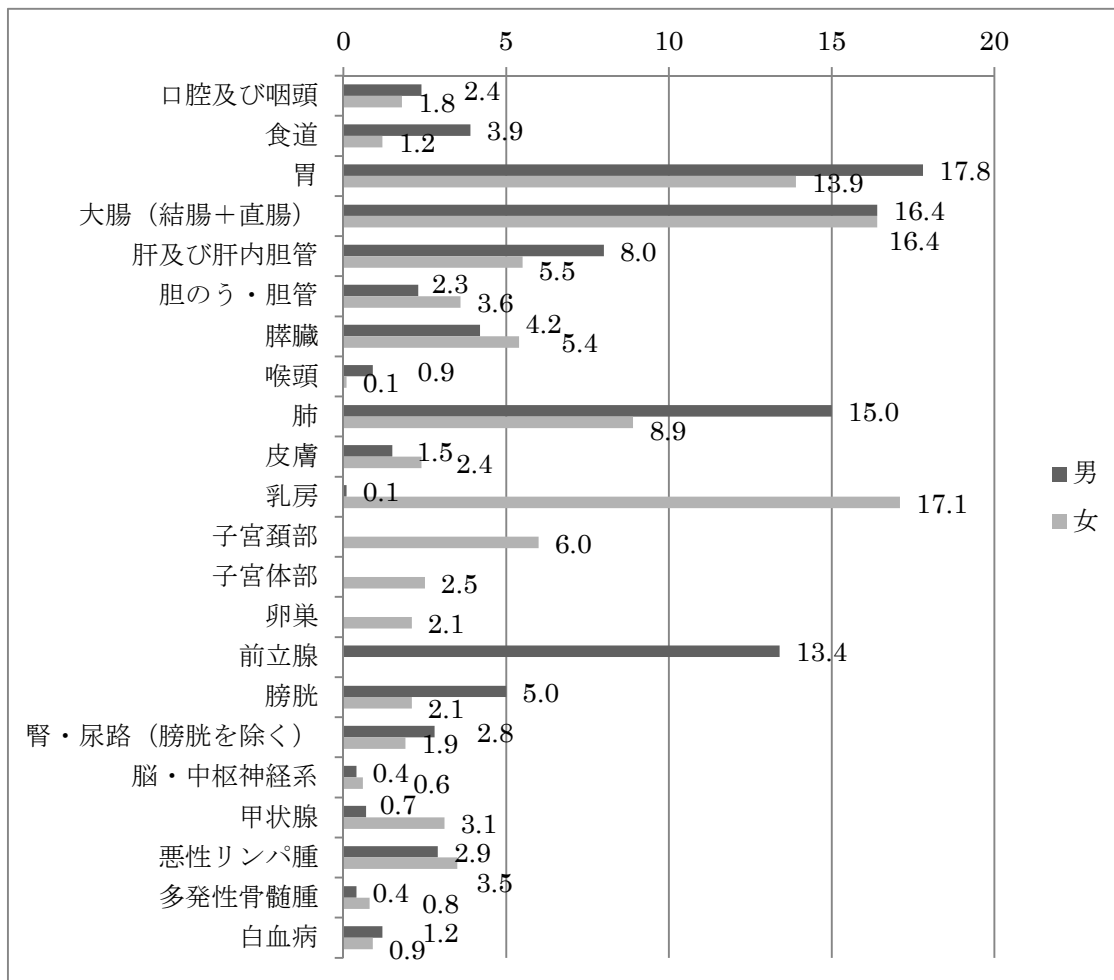
		全部位		胃		気管・気管支及び肺		大腸		膵		肝及び肝内胆管		乳房		子宮	
		死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位
平成25年	和歌山県	81.8	11	11.4	8	15.4	11	10.3	22	8.2	1	5.5	28	9.1	35	3.4	44
	全 国	80.1		10.1		14.7		10.4		7.0		6.0		10.7		4.5	
平成24年	和歌山県	87.7	4	12.8	3	16.3	3	10.9	16	8.6	2	8.4	7	9.9	22	3.5	43
	全 国	81.3		10.5		14.8		10.5		7.0		6.4		10.2		4.6	
平成23年	和歌山県	94.0	2	12.1	12	18.1	3	11.7	6	7.5	7	9.2	4	11.4	10	5.5	6
	全 国	83.1		11.0		14.9		10.5		6.9		7.0		10.8		4.6	
平成22年	和歌山県	91.8	4	15.1	2	16.9	5	10.0	25	7.6	5	10.0	6	7.8	47	4.5	23
	全 国	84.3		11.4		15.1		10.3		6.8		7.6		10.8		4.5	
平成21年	和歌山県	88.8	9	12.8	12	17.2	4	9.7	26	6.6	28	10.0	8	7.4	46	3.6	38
	全 国	84.4		11.8		14.9		10.1		6.7		7.9		10.6		4.2	
平成20年	和歌山県	90.3	9	15.1	3	17.9	2	9.6	33	7.2	10	10.1	10	9.1	40	2.3	47
	全 国	87.2		12.2		15.3		10.5		6.7		8.7		10.8		4.4	
平成19年	和歌山県	97.4	3	13.7	12	17.5	4	10.9	17	6.1	35	13.0	5	8.4	42	4.2	21
	全 国	88.5		12.7		15.3		10.9		6.4		9.3		10.5		4.2	
平成18年	和歌山県	98.9	2	13.5	22	18.0	2	11.1	17	7.4	1	12.2	8	12.0	6	5.5	2
	全 国	90.0		13.2		15.5		10.9		6.6		9.8		10.7		4.3	
平成17年	和歌山県	98.5	5	15.6	4	18.0	3	13.7	1	7.4	5	13.6	8	9.2	33	4.4	16
	全 国	92.4		13.2		15.6		11.2		6.6		10.6		10.4		4.3	
平成16年	和歌山県	103.9	3	15.8	11	17.2	4	12.0	12	7.4	5	15.0	7	10.5	13	4.5	17
	全 国	94.9		14.5		15.8		11.6		6.5		11.3		10.5		4.3	
平成15年	和歌山県	99.1	9	15.3	21	17.3	4	12.4	6	6.6	15	16.3	4	8.6	37	3.6	37
	全 国	94.7		14.5		15.3		11.6		6.3		11.8		10.0		4.2	
平成14年	和歌山県	102.2	4	13.4	38	17.7	6	12.2	10	7.5	2	17.2	5	10.4	13	5.1	6
	全 国	97.0		15.0		16.1		11.6		6.1		12.6		9.9		4.3	
平成13年	和歌山県	108.7	3	17.4	10	20.0	1	13.2	5	6.8	7	18.8	5	8.0	43	2.6	46
	全 国	100.3		16.0		16.5		11.9		6.2		13.1		10.3		4.2	

※ 死亡率は人口10万対の数値

（出典：国立がん研究センター）

〈部別・性別罹患割合（和歌山県 2011年）〉

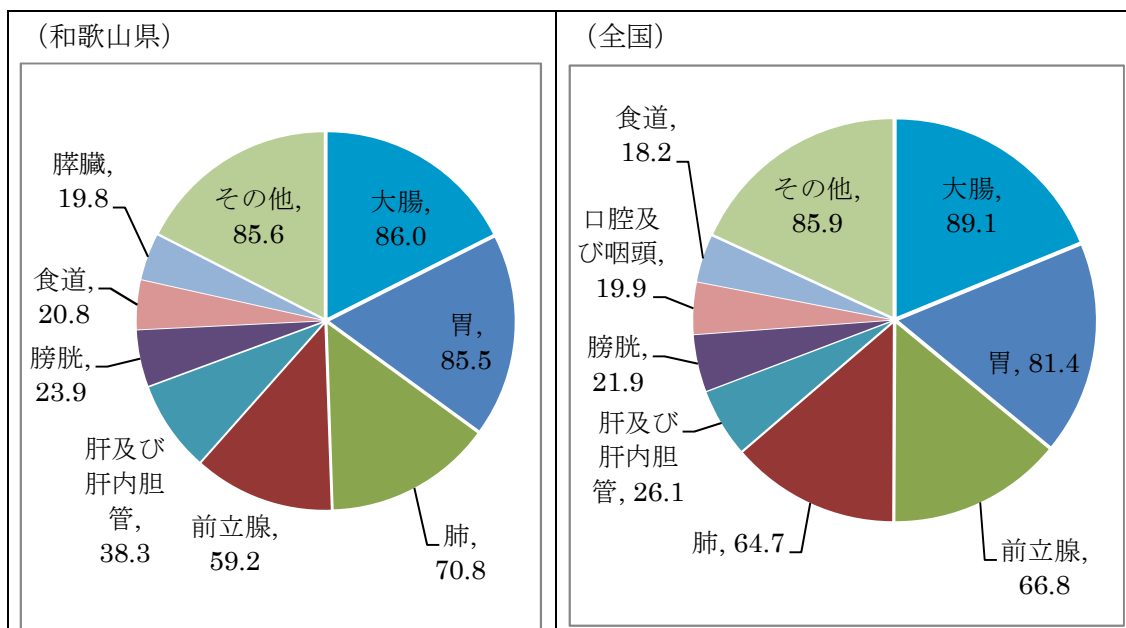
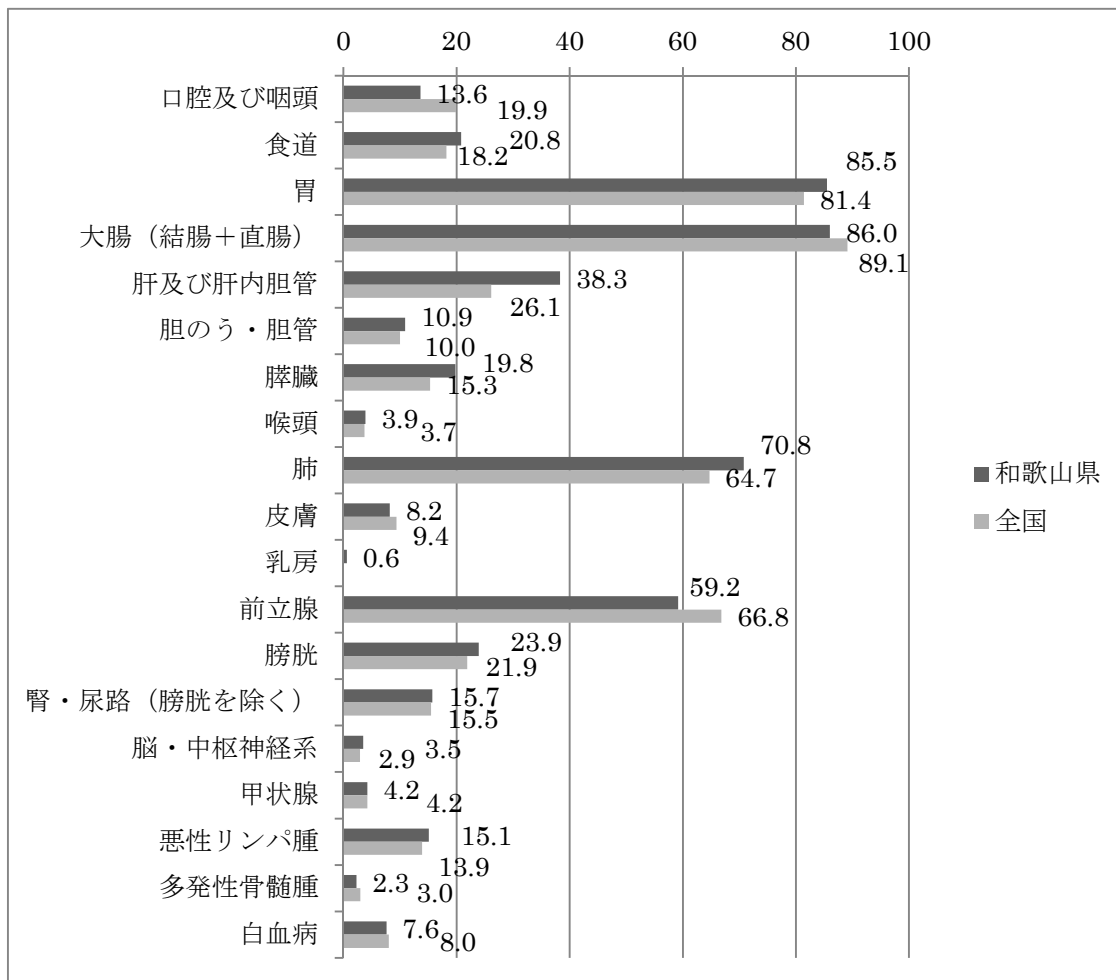
(%)



(出典：和歌山県地域がん登録事業報告書)

〈部位別年齢調整罹患率（男性）（2011年）〉

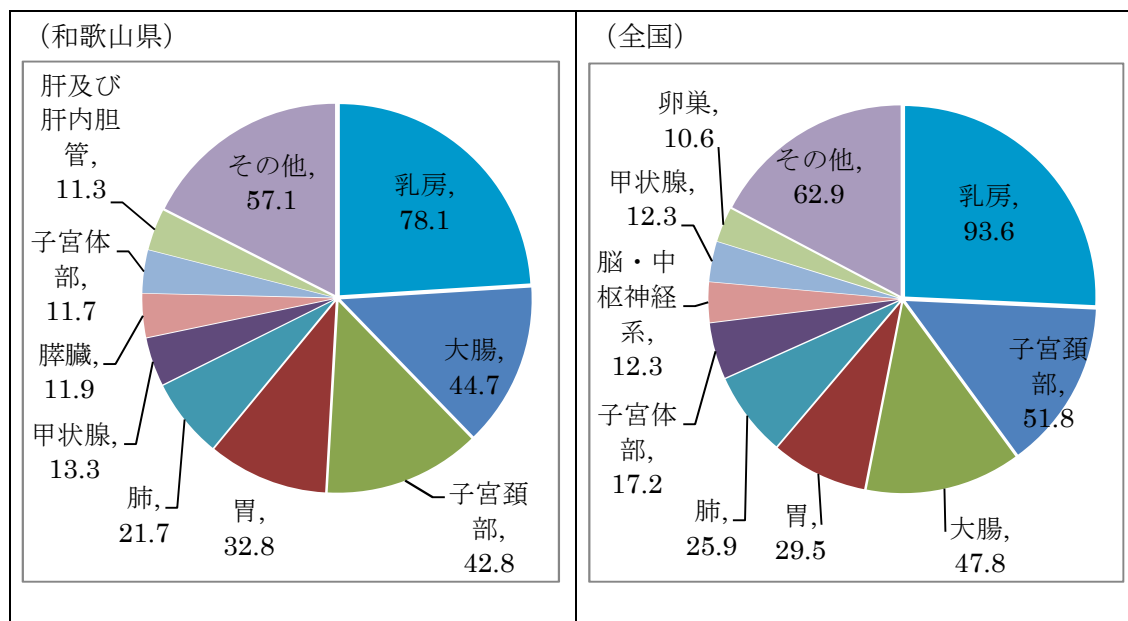
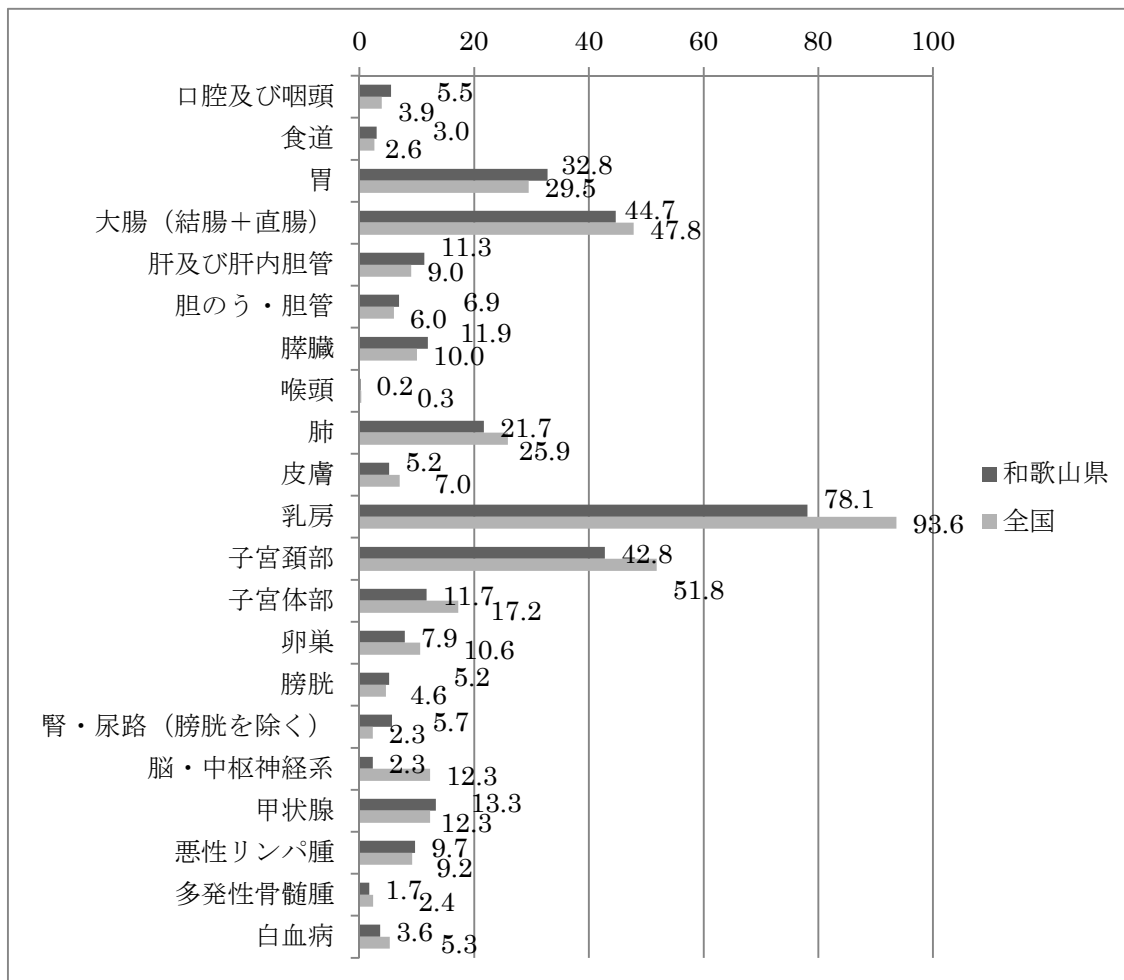
※人口10万対の数値



（出典：和歌山県地域がん登録事業報告書、全国がん罹患モニタリング集計）

〈部位別年齢調整罹患率（女性）（2011年）〉

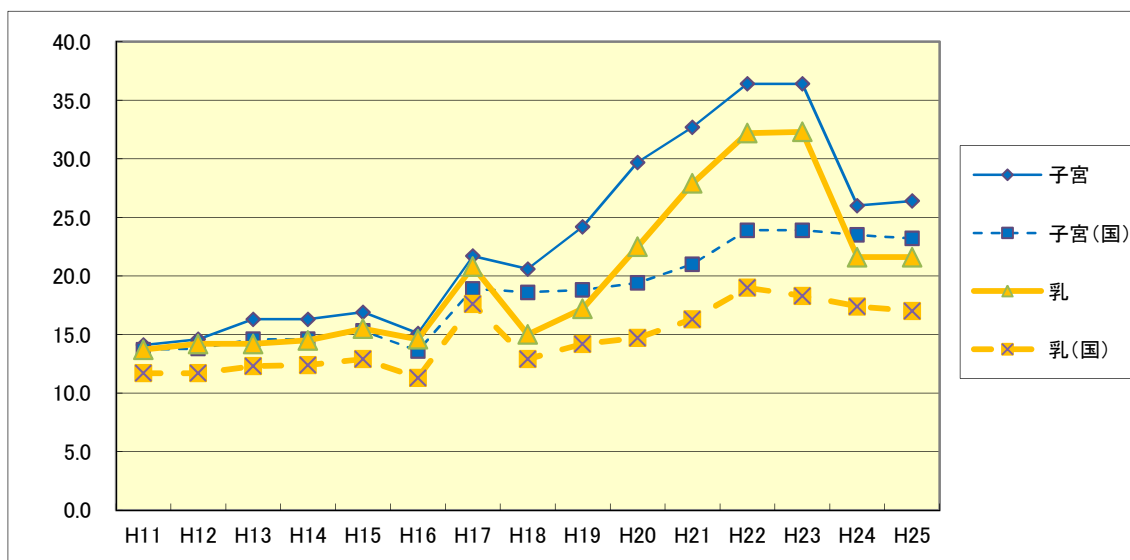
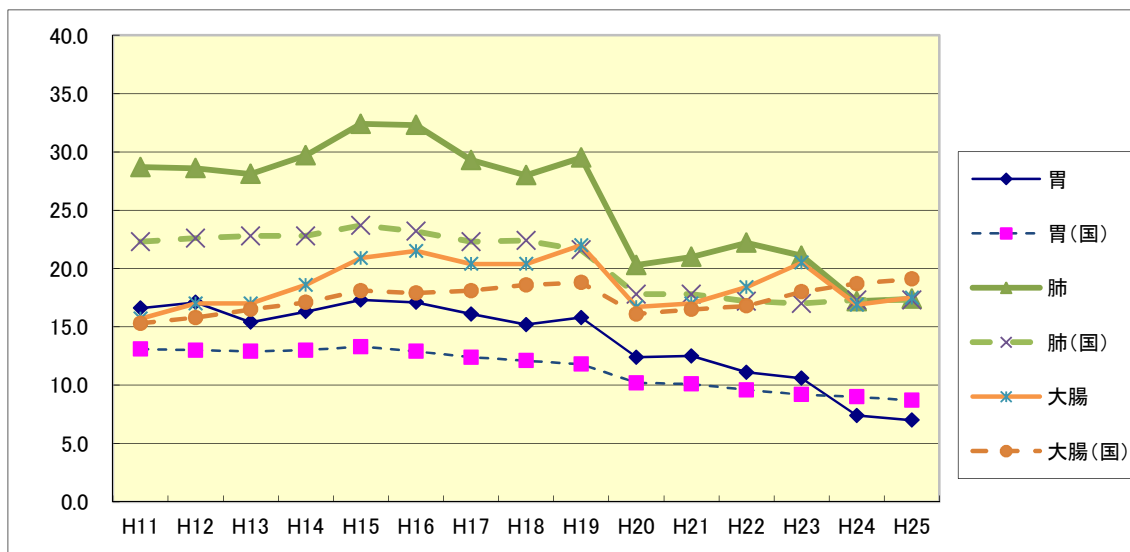
※人口10万対の数値



（出典：和歌山県地域がん登録事業報告書、全国がん罹患モニタリング集計）

〈がん検診受診率（全年齢）の推移（和歌山県）〉

(%)



※ H24 年度から地域保健・健康増進事業報告で各市町村の計算方法を統一したことから、H24 年度の受診率は下落したが、肺、子宮、乳の受診率（全年齢）は全国より高い。

（出典：地域保健・健康増進事業報告）

〈がん検診受診率（69歳以下）の状況〉

(%)

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
H24(69歳以下)	和歌山県	11.1	22.4	24.0	42.9	38.1
	全国	10.0	16.3	18.9	31.8	26.3
H25(69歳以下)	和歌山県	10.5	22.7	24.8	43.2	37.8
	全国	9.6	16.0	19.0	31.1	25.3

※ H25 年度から地域保健・健康増進事業報告の検診率は 69 歳以下で統一された。

（出典：地域保健・健康増進事業報告）